

様々なキャリアをもつ女性研究者の発展を総合的に支援します！



国立大学法人
名古屋大学

発展型女性研究者支援名大モデル

大学生：9,744名 大学院学生：6,050名
教員数：1,768名

沿革等：1939年に日本で7番目の帝国大学として創設。2005年には、女性教員増加のための「ポジティブ・アクション」を全国で初めて表明。



□ 多様な勤務形態に対応できる職場環境・制度の整備

女性研究者が安心して仕事と育児等を両立できる環境をつくるために、様々なニーズにこたえられるような勤務体制の多様化を図ります。そのために、育児中の研究者を対象とした「特別研究期間制度」の活用や「短時間勤務制」や「フレックス・タイム勤務制」などの制度導入を検討しています。また同時に、育児休暇等の取得しやすい職場環境作りにも力を入れ、病児保育・学童保育の導入なども目指しています。

□ 発展型ポジティブ・アクションプロジェクトの展開

女性研究者の増加に関する支援策として、発展型ポジティブ・アクションプロジェクトを展開します。これは、女性研究者を多く採用・昇進した部局に対して全学措置人件費を一定期間配分し、部局内人事に利用してもらうシステムをつくることで、女性教員の採用にインセンティブを与えつつ、発展的に女性教員の採用を促進することを目的としています。

□ 仕事と子育ての両立支援システムの構築

インターネットを利用して、職場のネットワーク環境をそのまま自宅まで拡張し、職場において利用しているネットワーク・サービスを自宅で利用できるようにします。また、名古屋大学の学内保育所（こすもす保育園）を対象として、両立支援コミュニケーションシステムを導入します。

□ 若手研究者の育成支援

若手女性研究者や将来女性研究者となる女子学生への支援策として、女子大学生・大学院生対象の「女子学生エンカレッジセミナー」、女子中学・高校生対象の「女子中高生理系進学推進セミナー」を開催し、理系進学の推進やロールモデルを提示します。また、理系女子大学院生による出張セミナーや、本学でのセミナー等も実施します。

□ 女性研究者の交流支援

理系分野を中心に「女性研究者間ネットワーク」を構築し、キャリアアップや両立支援に有効なノウハウについて女性研究者間での情報の交換・共有・蓄積を図ります。そのために、年4回の定期的な女性研究者交流会の実施と、女性研究者を中心としたインターネット上のコミュニケーションシステムを稼働させ専門分野、機関を超えた女性研究者の交流を目指します。



総括責任者名： 総長 平野 真一

実施責任者名： 男女共同参画室室長 東村博子

推進室等の名称・連絡先： 男女共同参画室

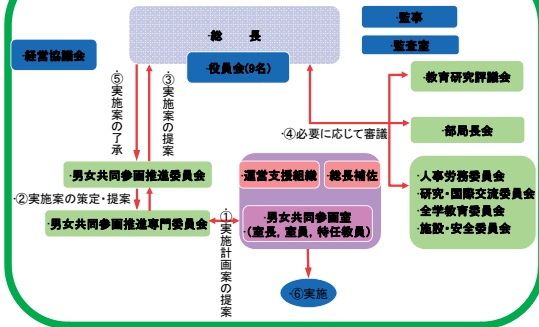
kyodo-sankaku@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

URL: <http://www.nuws.provost.nagoya-u.ac.jp/jst/>

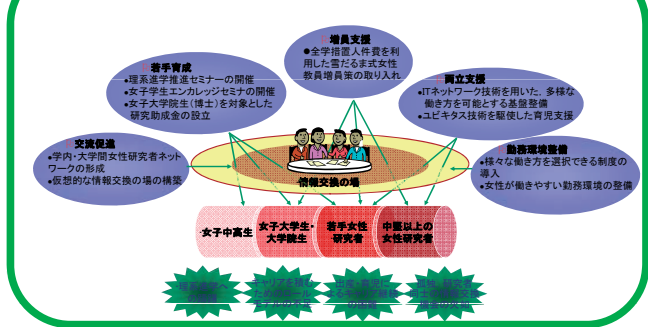
発展型女性研究者支援名大モデル

様々なキャリア・境遇の女性研究者を総合的に支援するとともに、支援ノウハウを蓄積・公開し、そのモデルとなることで、全国の大学の男女共同参画の牽引役としての名古屋大学のミッションを果たす。

実施体制



計画構想



多様な勤務形態に対応できる職場環境の整備

名古屋大学独自の両立支援制度として、育児中の研究者を対象とした「特別研究期間制度」を活用する。また、「フレックス・タイム勤務制」や「短時間勤務制」の制度化に向けた検討を完了する。さらに、各理系部局に女性研究者が利用できる専用スペースの設置を働きかける。

本モデルを実施するために女性教員(目標3名)を雇用する。その上で「発展型ポジティブ・アクション・プロジェクト」を立ち上げ、実施期間終了後に継続的な女性教員の増加を実現する基盤を構築する。「両立支援コミュニケーションシステム」の開発において、女性研究員を登用する。

女性研究者の増加に関する支援

仕事と家庭の両立支援

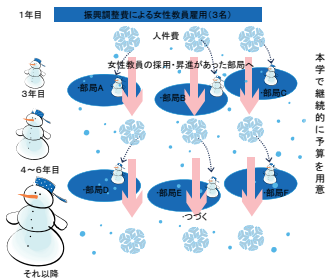
「両立支援コミュニケーションシステム」を名古屋大学こすもす保育園を基盤として構築し、また「在宅勤務支援システム」を立ち上げる。これらのシステム構築を実施期間内に完了し、試行運用に入る。

女子大学生・大学院生を対象に「女子学生エンカレッジセミナー」を年2回程度開催し、女子学生ヘールモデルを提示する。女子中学・高校生を対象に「女子中高生理系進学推進セミナー」を年2回程度開催し、女子中学・高校生の理系進学を促進する。また、理系女子大学院生による出張セミナー・本学でのセミナー等を実施する。

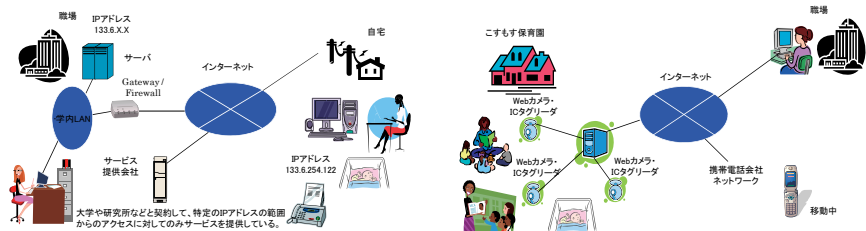
若手研究者の育成支援

女性研究者の交流支援

「女性研究者間ネットワーク」の構築により、年4回程度の定期的な女性研究者交流会を実施し、さらに女性研究者を中心としたインターネット上のコミュニケーションシステムを稼働させ定着させる。専門分野、機関を超えた女性研究者の交流を目指す。



発展型ポジティブ・アクションプロジェクト



在宅勤務支援システム

両立支援コミュニケーションシステム